

婦人科 傷が残らない新手術

経腔的内視鏡手術「vNOTES」保険適用に

おなかに全く傷が付かない婦人科手術の器具が新たに保険適用された。婦人科では体に負担の少ない腹腔鏡手術やロボット支援下手術が主流だが、小さいながらも複数箇所に残る。新たな手術法は婦人科の良性疾患のほとんどをカバーでき、従来の手術と比べ痛みも少ない。

各種婦人科手術の傷痕のイメージ



開腹



腹腔鏡



ロボット支援下



vNOTES



西村真唯医師

婦人科腫瘍専門医・腹腔鏡技術認定医で、全国有数のvNOTES手術件数を誇る「札幌積心会病院」（札幌市東区）婦人科・vNOTESセンター兼、積心会さっぽろ北クリニック（札幌市北区）婦人科の西村真

vNOTES（フイノーツ＝経腔的内視鏡手術）と呼ばれるもので、腹腔鏡手術の一種だ。2020年に手術器具が保険適用された。

良性疾患のほとんどで可能／術後の痛み少なく

唯医師によると、従来の腹腔鏡手術はおなかに5ミリの穴を4カ所前後開けるが、vNOTESは腔を切開し、カメラ1台、鉗子2本を入れて手術を行う。これにより手術後、外から見えない傷ができない。

西村医師は「当院は開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット支援下手術も行うが、vNOTESが第1選択。美容面で優れているほか、従来の腹腔鏡手術と比べ、術後の痛みも少ない」と指摘する。

対象は卵巣腫瘍（卵巣腫瘍のみ、または卵巣・卵管ごと切除するもの）、子宮筋腫、子宮腺筋症、子宮頸部異形成に対する子宮全摘術など婦人科の良性疾患のほぼすべての手術が可能だ。婦人科のがんや、子宮を残す子宮筋腫核出術は一部の症例を除き適応外。

対象は卵巣腫瘍（卵巣腫瘍のみ、または卵巣・卵管ごと切除するもの）、子宮筋腫、子宮腺筋症、子宮頸部異形成に対する子宮全摘術など婦人科の良性疾患のほぼすべての手術が可能だ。婦人科のがんや、子宮を残す子宮筋腫核出術は一部の症例を除き適応外。

手術の前日に入院し、術後翌日の血液検査で異常がなければ、2〜3日で退院が可能。痛みが軽ければ翌日に退院することもできる。費用も従来の腹腔鏡手術と変わらない。

vNOTES手術は一般に従来の腹腔鏡手術より難しいため、実施していない医療機関もある。巨大な子宮筋腫の子宮全摘術、子宮内膜症・チョコレート嚢腫などによる癒着などの重症症例、腔からの出産経験がない、性交渉歴がない人を適応外としているところもあるが、札幌積心会病院では対応することができると話せる。

西村医師は「他院でvNOTESによる手術が難しいと言われた方も当院では大半のケースで手術が可能。ぜひ相談してほしい」と話す。

（編集委員 荻野貴生）

4種類の術式 特徴は

婦人科手術は、大別すると4種類ある。

開腹手術は下腹部を10センチほど切開するもので、古くから行われている。高度な医療機器を必要とせず、最小限の医師数で行える。半面、術後の痛みが強く、入院期間も長いなど患者の負担が大きい。

腔式手術は腔（産道）の一部を3〜5センチ切開して行う。その起源は19世紀初頭にさかのぼるとされる。ただ、現在では腔に子宮が出てくる子宮脱の症例が大部分を占める。腹腔鏡手術も医療機器の進

歩で拡大している手法で、おなかに小さな穴を複数箇所（へその穴から行う単孔式もある）を開け、医師は二次元モニタールを見ながら鉗子（かんし）を操作する。

婦人科のロボット支援下手術は2018年に保険適用された。コンピューター制御の医療機器で、医師は三次元の映像を見ることができ、より繊細な手術が可能となった。ただ、おなかに8ミリの程度の穴を4〜5カ所開ける必要があり、傷痕が目立ちやすい面がある。（編集委員 荻野貴生）